第 55 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会③）

開催記録

1 開催概要

- 日時：令和7年5月7日（水）10：00～11：00
- 場所：JR東日本 現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）
オブザーバー	・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区 街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・鉄道博物館 学芸部 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
サポート	・パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配付資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料1：第54回委員会（4/9）全体会議事録案
- ・ 資料2：第54回委員会（4/9）部会②議事録案
- ・ 資料3：第54回委員会（4/9）部会③議事録案

2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料1：調査結果について
- ・ 資料2：雑魚場架道橋周辺の試掘調査の実施について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 開会

- 第 55 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

(2) 議事録確認

1) 第 55 回委員会 (4/9) 全体会の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2) 第 55 回委員会 (4/9) 部会②の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

3) 第 55 回委員会 (4/9) 部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2.2 部会③

(1) 開会

- 第 55 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(事務局)

(2) 調査結果について

- 資料 1 について説明する。(港区)

<説明概要>

- 土留壁施工箇所におけるボーリング No.71、73、75、76、78 及び口元管設置位置 KP22-1、22-2 の調査結果を報告する。
- 口元管からは構造物は確認されず、ボーリング調査でも支障物は確認されなかった。
- 口元管のライナー 3、4 段目から江戸時代の陶磁器が確認された。
- ボーリングの結果はいずれも従前の土層分布の傾向と同様であった。
- KP22-2 のライナー 2 段目から、1 辺が 10cm 程度、長さ 40cm 程度、上部が滅失した状態の木杭 2 本が線路に並行する位置で検出され、記録を取ったうえで取り出して保管している。
- KP22-2 のライナー 4 段目から、番線で括られ線路に直角方向に並ぶ丸太材が検出され、ライナー内で記録を取り、ライナー範囲で切り出して保管している。
- 丸太の長さは確認できていないが、東側の KP22-1 で確認されていないことから 2

m 程度と想定している。

- 4街区の調査において同様の構造物が確認されており、電柱等を支えるアンカー構造物と考える。
- ボーリングの結果において薩摩台場の土層は従前と同様の分布傾向であるが、その上位の層で見られた明らかな浚渫土は確認されなかった。
- これまでの調査範囲より、薩摩台場の土層はいずれも残っていて、その地形を活かして鉄道を敷設したことが明らかであり、様相が分かってきたことは大きな成果である。(委員長)
- 今回は上層から浚渫土が確認されていないため、同じ薩摩台場の上層であっても少し様相が異なる部分がある可能性がある。(委員長)
- 支障物が検出されたボーリング No.40~44 辺りに舟入があったと考えられ、この評価を進めなければならない。(委員長)
- 港区の説明を踏まえてこれまでの同様の考え方に基づく判断を行い、今回の報告範囲の仮土留の施工を可としたい。(委員長)
- ← 異議なし。(委員一同)
- 今回の報告範囲の仮土留の施工を可とする。(委員長)
- 今後は東京方の調査を進め、薩摩台場と高輪築堤本体の接続部分の解明を行いたい。(委員長)

(3) 雑魚場架道橋周辺の試掘調査の実施について

- 資料 2 について説明する。(港区)
＜説明概要＞
 - 第 51 回委員会で報告した雑魚場架道橋周辺から薩摩台場の範囲で試掘調査を進めているが、今回はこれに関連した追加調査について説明する。
 - 羽田空港アクセス線の掘削施工範囲の山側の土留壁の位置で、5箇所ライナー掘削による調査を行う。
 - 調査箇所 25 では調査箇所 6 で検出された薩摩台場の石垣と同様のものが検出される可能性がある。
 - 調査箇所 21~24 では、海側石垣やバラスト等が確認される可能性がある。
 - 調査結果は随時報告する。
- 追加調査は、仮土留めを打設する範囲における石垣の有無の確認と共に、高輪築堤本体と薩摩台場の接続部分と、雑魚場架道橋を境に幅が異なる海側石垣の状況を明らかにすることが狙いである。(委員長)
- 矩形ライナーを設置した調査により目視で確認する計画である。(委員長)

- 海側石垣が存在すれば今後の本調査時の調査方針の大きな指針になる。(委員長)
- まずは山側の部分の状況を確認し、その結果より海側の想定が可能になるかもしれないという見通しを持っている。(委員長)
- 薩摩台場の上に線路を通していた部分と築堤を構築していた部分は、遺構のあり方が違う。築堤の本体には石垣があることが明らかなので、その内容を把握してから工事時の調査方針を検討していきたい。(委員長)
- 今回の施工承認に感謝する。今後本格的な工事を進めていくが調査が必要なことは認識している。工事自体も非常に難しく、クリティカルな工程となるため、引き続きご指導をお願いしたい。(JR)

(4) その他

<部会①・部会③終了後>

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。
 - ← 特に意見はない。(文化庁)
 - ← 特に意見はない。(東京都)
 - ← 特に意見はない。(港区)

(5) 閉会

- 次回委員会は6月4日(水)10時00分より、会場はTKP ガーデンシティプレミアム品川を予定する。本日はこれで閉会とする。(事務局)

3 議事録

3.1 議事録確認

(1) 開会

- (事務局) 第 55 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。
- ・ 資料確認
 - ・ オンラインの案内
 - ・ 次第説明

(2) 議事録確認

- (事務局) 3つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに連絡をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

3.2 部会③

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 調査結果について

- (港区) 資料 1 について説明する。緑色の部分が報告範囲である。土留壁施工箇所におけるボーリング No.71、73、75、76、78 及び口元管設置位置 KP22-1、22-2 の調査結果を報告する。口元管からは構造物は確認されず、ボーリング調査でも支障物は確認されなかった。口元管のライナー 3、4 段目から江戸時代の陶磁器が確認された。過去の調査においてもこの 3、4 段目から江戸時代の遺物が検出されている。ボーリングの結果はいずれも従前の土層分布の傾向と同様であった。KP22-2 のライナー 2 段目から、1 辺が 10cm 程度、長さ 40cm 程度、上部が滅失した状態の木杭 2 本が線路に並行する位置で検出され、記録を取ったうえで取り出して保管している。KP22-2 のライナー 4 段目から、番線で括られ線路に直角方向に並ぶ丸太材が検出され、ライナー内で記録を取り、ライナー範囲で切り出して保管している。丸太の長さは確認できていないが、東側の KP22-1 で確認されていないことから 2m 程度と想定している。4 街区の調査において同種の構造物が確認されており、電柱等を支えるアンカー構造物と考える。ポ

ーリングの結果において、いずれも石などの支障物には当たっていない T.P.+2.0m 付近～T.P.-2.1m 付近までが薩摩台場の土層となり、その上部には瓦片や陶磁器片が検出されている。薩摩台場の土層は従前と同様の分布傾向であるが、その上位の層で見られた明らかな浚渫土は確認されなかった。

(委員長)

質問、意見はあるか。

(委員長)

これまでの調査範囲より、薩摩台場の土層はいずれも残っていて、その地形を活かして鉄道を敷設したことが明らかであり、様相が分かってきたことは大きな成果である。今回は上層から浚渫土が確認されていないため、同じ薩摩台場の上層であっても少し様相が異なる部分がある可能性がある。支障物が検出されたボーリング No.40～44 辺りに舟入があったと考えられ、この評価を進めなければならない。

(委員長)

港区の説明を踏まえてこれまでと同様の考え方に基づく判断を行い、今回の報告範囲の仮土留の施工を可としたい。今後は東京方の調査を進め、薩摩台場と高輪築堤本体の接続部分の解明を行いたい。

(委員一同)

異議なし。

(委員長)

それでは、今回の報告範囲の仮土留の施工を可とする。

(委員長)

他に何かなければ、次に進める。

(3) 雑魚場架道橋周辺の試掘調査の実施について

(港区)

資料2について説明する。第51回委員会で報告した雑魚場架道橋周辺から薩摩台場の範囲で試掘調査を進めているが、今回はこれに関連した追加調査について説明する。羽田空港アクセス線の掘削施工範囲の山側の土留壁の位置で、オレンジ色の点で示す21～25の計5箇所のライナー掘削による調査を行う。調査箇所25では調査箇所6で検出された薩摩台場の石垣と同様のものが検出される可能性がある。調査箇所21～24では、海側石垣やバラスト等が確認される可能性がある。今回は円形ライナーだけではなく、矩形ライナーの活用やボーリングの併用等を考えている。調査結果は随時報告する。

(委員長)

質問、意見はあるか。

(委員長)

追加調査は、仮土留めを打設する範囲における石垣の有無の確認と共に、高輪築堤本体と薩摩台場の接続部分と、雑魚場架道橋を境に幅が異なる海側石垣の状況を明らかにすることが狙いである。山側は重ね図より築堤の頂部に近い箇所になる。矩形ライナーを設置した調査により目視で確認する計画である。海側石垣が存在すれば今後の本調査時の調査方針の大きな指針になる。一方で海側は調査箇所5以外は海側石垣があるのかどうかわかっていないので、さらに調査を進める必要があると思っている。しかしまずは山側の部分の状況を確認し、その結果より海側の想定が可能になるかもしれないという見通しを持つ

ている。

- (委員長) 薩摩台場の上に線路を通していた部分と築堤を構築していた部分は、遺構のあり方が違う。築堤の本体には石垣があることが明らかなので、その内容を把握してから工事時の調査方針を検討していきたい。
- (JR) 今回の施工承認に感謝する。先日大規模な切換工事を無事に終え、社会からも注目されていることを再確認した。今後本格的な工事を進めていくが調査が必要なことは認識している。工事自体も非常に難しく、クリティカルな工程となるため、引き続きご指導をお願いしたい。
- (委員長) 他に何かなければ、次に進める。

(4) その他

- (委員長) その他は何かあるか。
- (委員長) 特になければ部会③を閉会する。

<部会①・部会③終了後>

- (委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。
- (文化庁) 議論いただきありがとうございました。今日は特に意見はない。
- (東京都) 議論いただきありがとうございました。今日は特に意見はない。
- (港区) 引き続き慎重かつ丁寧な調査を進めていきたい。今日は特に意見はない。

(5) 閉会

- (事務局) 次回の定例委員会は、6月4日(水)10時00分より、会場はTKPガーデンシティプレミアム品川を予定する。お忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以 上